

2023年度認定審査サマリーレポート

JABEEの認定・審査は、正会員57専門学協会の協力を得て、認定分野ごとに置かれた16の分野別審査委員会及びJABEEの認定・審査調整委員会による審議・調整に基づき実施されています。プログラム（本レポート本文末尾の注参照）の審査は、各分野別審査委員会から推薦され、認定・審査調整委員会が承認した審査チームによって行われます。その審査結果は、分野別審査委員会における分野としての審議・調整の後、認定・審査調整委員会において全体の審議・調整を行い、最終審査報告書としてまとめられます。最終審査報告書は認定会議で審議・決定した後、理事会の承認により確定し、申請プログラムに送付されます。

2020年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、新規審査と予備審査を除く大部分の審査の完了を2021年度末まで持ち越すこととしました。これを受け、その後の各年度の審査も下記1.(1)項記載の暫定スケジュールと同等のスケジュールにて、2024年度まで継続する予定です。2023年度は、2022年度申請プログラムのうちの認定継続審査、中間審査、並びに2024年度申請プログラムのうちの新規審査及び下記1.(2)項記載の特別措置に基づく一斉審査を合わせて65件の審査を実施しました。

1. 2022年度／2023年度認定審査結果

(1) 審査方針及び結果概要

2023年度は2022年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症への対策として以下により審査を進めることとし、JABEEウェブサイト

https://jabee.org/accreditation/basis/examination_doc

で公表しました。

① 暫定的な審査スケジュールの適用

「2023年度申請プログラムの認定・審査スケジュールと審査方針について」

② 実地審査は原則としてWeb審査により実施

「審査のガイドライン（新型コロナウイルス対策のための暫定的対応）第4版」

「建築分野に関する審査のガイドラインの補足」

この方針に基づいた審査の結果、2022年度に申請のあった審査のうち認定継続審査及び中間審査55件、2023年度に申請のあった審査のうち新規審査2件、認定継続審査及び中間審査8件のプログラムがそれぞれ認定されました。

また、上記のコロナ禍における暫定的な審査スケジュールを踏まえた一斉審査特別措置等により、コロナ禍前は10%~20%台であった各年度の認定プログラム数(予備審査を除く)に占める一斉審査対象プログラム数の比率は、今年度35%に増加しています。

2023年度に認定されたプログラムの審査は174名の審査員によって審査が行われました。また、22名の審査員候補者が、審査研修員として審査に参加しました。審査員・審査研修員196名のうち産業界の経験者は95名(48%)でした。

2001年度の認定事業開始から2022年度までの認定プログラムの累計は、海外のプログラムを除き174教育機関の526プログラムとなりました(図1、表1)。このうち99(57%)の教育機関では複数のプログラムが認定されています。また、認定プログラムの修了生は累計で約36万人に達しています。

一方、認定継続の辞退による認定プログラムの減少は、2023年度も同様に続いています(図2)。今後も認定を継続していただくための対策を引き続き検討し、実施していきます。

なお、2025年度以降の審査申請プログラムについては、コロナ禍の暫定的な審査スケジュールの適用を解除し、Webを活用した遠隔での審査方式の正式採用や訪問審査との併用等、認定・審査の手順と方法の見直しも進めていきます。

(2) 同一教育機関の複数プログラムに対する特別措置

2020年度から6年間、同一教育機関の複数プログラムの審査が2年度連続する場合については、その対象となるプログラムの審査を他のプログラムとともに2年目の年度に一斉審査として行う特別措置を実施しています。この措置が適用されたプログラムは、2022年度認定対象プログラムのうち3プログラム、2023年度認定対象プログラムのうち2プログラムでした。

(3) 審査員研修会

審査員研修会は集合形式の研修会をすべて中止し、オンラインでの研修としました。従来は毎年7月に実施していましたが、コロナ禍における審査スケジュールの変更により年に2回審査員を編成することに対応するため、2021年度から2回のオンライン研修会を実施しており、2023年度は2023年8月21日と2024年3月19日に実施しました。また、同時期にJABEEが契約しているWeb講習サイトの「学び〜と」に審査員向けの教材を用意して受講していただきました。分野が主催する審査員候補者の導入研修会(審査講習会)は2回開催されました。

(4) 国立高等専門学校のKIS 認証評価と JABEE 審査方式の見直し

国立高等専門学校機構（以下、高専機構と呼ぶ。）は、日本工学教育協会の協力を得て、2022 年度より高専本科の教育の質を評価して認定する仕組み（国立高専教育国際標準：略称 KIS）の運用を開始しました。JABEE では、この仕組みの認証評価を行いました。その結果、いくつかの懸念事項は見つかったものの、その仕組みが適切に機能していることを確認し、2023 年 6 月の理事会で承認しました。2023 年度は 4 校の高専の KIS 認定の評価が行われました。JABEE では KIS 認証評価の一環として、これらの評価・認定のプロセスに対しても継続モニタリングを行いました。その継続モニタリングの結果については 2024 年 4 月の理事会で報告し、日本工学協会と高専機構に通知する予定です。一方、JABEE が実施する各国立高専を対象とするプログラム審査（本科 4、5 年及び専攻科で構成）にて、本科部分について KIS による評価結果を活用することで受審プログラム／審査員双方の負荷を軽減させることについては、KIS 認証評価で見つかった懸念事項に対する改善が十分でなかったことにより、確かな成果を出すには至りませんでした。

2. 国際関係

(1) ソウル協定継続加盟審査

JABEE が加盟している情報専門系学士課程認定の相互承認を行うソウル協定の継続加盟審査が 2023 年に行われました。2016 年に続く 3 度目の審査で、協定審査員 3 名（カナダ、香港、台湾）に対し 2023 年 9 月 25 日にオンラインでプリミーティングを行い、JABEE の組織概要、審査の手順と方法そして認定基準などについて説明を行いました。

10 月に入り 2 大学の CS 分野の現地審査の映像を協定審査団が視聴しました。1 校目の審査には、1 名の審査員が来日し、ソウル協定部会委員のファシリテートのもと現地審査の映像を視聴しました。2 校目の審査については海外からオンラインで視聴しました。2 月に行われた認定・審査調整委員会の調整審議についても、当該プログラムの審査結果報告の時間帯の映像を海外からライブ視聴しました。

(2) インドネシア技術者教育認定団体 (IABEE) 設立支援

JABEE は、2013 年以来インドネシアのエンジニアリング教育の質保証支援に関わってきました。2014 年 11 月に始まった国際協力機構 (JICA) 技術協力プロジェクトを通じ、インドネシアは国際レベルの技術者教育認定団体 (IABEE) を立ち上げ、ワシントン協定に正式加盟を果たしました。これにて 2023 年 8 月にプロジェクトは終了しました。

(3) 国際協定の会議参加

新型コロナウイルス感染症により、対面での会議が実施されていなかった国際エンジニアリング連合（IEA）会議、ワシントン協定会議、情報系のソウル協定総会、建築設計・計画系のキャンベラ協定総会が4年ぶりに対面で開催されました。JABEE 国際協定・事業委員長、国際部や協定部会の主査、委員が出席しました。

(4) マレーシアからの留学生と JABEE 認定

JABEE 認定を受けているプログラムが 2023 年度の審査を辞退した結果、在籍していたマレーシア人留学生がワシントン協定下で実質的同等性のあるプログラムの修了生として卒業できないことが判明しました。これは、留学生本人が在日マレーシア大使館に相談したことがきっかけで、大使館から JABEE に問い合わせの連絡が入りました。マレーシア大使館の関係者と打ち合わせを行い、留学生の状況や JABEE 認定プログラムを卒業できないことによる母国での不利益などについて詳しく聞き取りを行いました。また、文部科学省や当該大学とも協議をした結果、辞退取り下げにより認定を継続していただけることになりました。

留学生の対応については国際問題に発展する可能性があるため、認定プログラムに対しても注意を促す対応をしていきます。

3. 広報・普及活動

(1) 公式 SNS の設置と情報発信

2022 年 7 月から、情報発信手段として SNS の X（旧 Twitter）を使用し、JABEE の活動を理解してもらうための記事や用語の解説、最新のトピックスなどを発信してきました。しかし、Twitter から X に代わり、ホームページで投稿したリンクが閲覧できない等の問題が発生したため、X への投稿を見送っておりましたが、2 月より再開し、今後、継続して情報発信を行っていきます。

(2) 学会、省庁、企業関係者等への広報活動

日本のデジタルやグリーンなどの成長分野をリードする人材を育成するために、学部の再編成などにより実現する取り組みを進めようとする大学に対して、文部科学省が支援する制度が確立し、昨年度、設立されました。この支援対象校として選定された女子大学に対して JABEE 認定についての説明を行いました。また、新たに JABEE 認定を受けたいと考えている工科系の大学にも説明を行いました。

JABEE 認定を受けている大学、高専などの高等教育機関や JABEE の活動を支援していただいている正会員、賛助会員の団体や企業を訪問し、JABEE の状況を説明しました。

さらに、技術者教育と技術士の関係が深いことから、技術士の IPD（初期専門能力開発）関連で文部科学省主催の IPD 懇談会に委員として参加することになりました。今後はこの場を借りて、JABEE の技術者教育認定と技術士資格の一層の連携と社会的認知度の向上に努めていきます。

(3) ワークショップの開催

公益社団法人日本工学教育協会との共催で、「国際的に通用する技術者教育ワークショップシリーズ」を毎年開催してきています。2023 年 6 月 6 日に開催された第 19 回では、大学の DX（デジタルトランスフォーメーション）の全体像と教育の質保証、学習者本位のデジタル技術の本質を理解し、学習や教務におけるデジタル技術の具体的な適用方法を学ぶことをテーマにしました。また、2024 年 3 月 23 日に開催された第 20 回では、地球環境の限界を意識した循環経済（サーキュラーエコノミー：CE）への急速な転換が迫られている中で、技術者・企業に必要な知識と具体的手法を提供することをテーマにしました。

4. 認定プログラム修了者の技術士資格取得状況

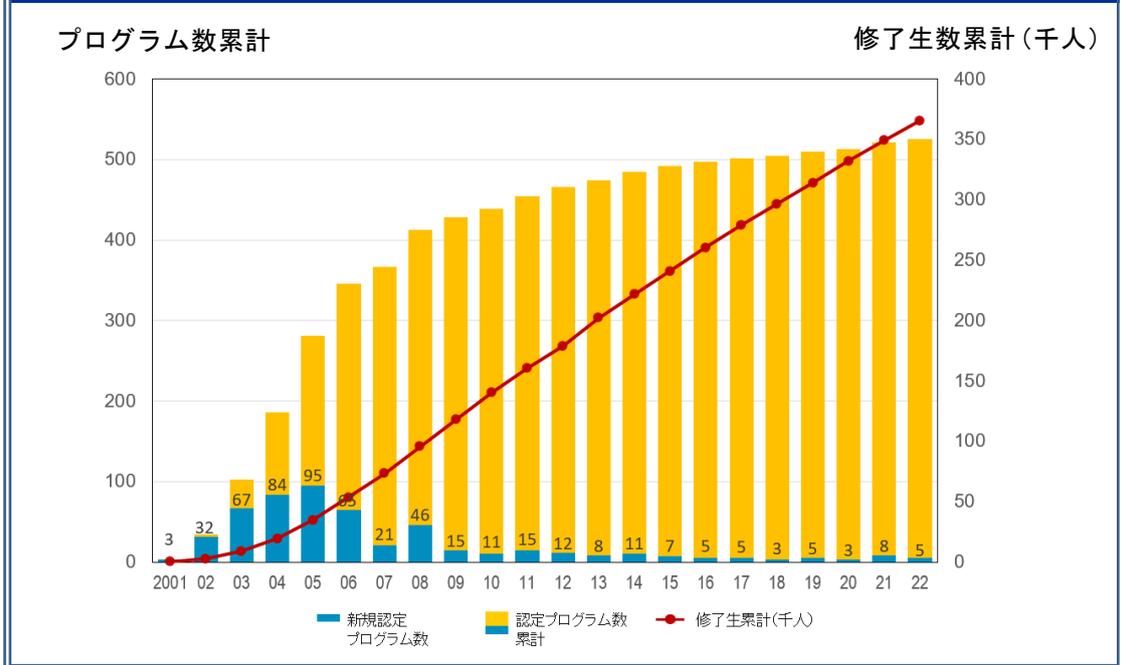
JABEE認定プログラムの修了者（以下、修了者と呼ぶ）は修習技術者（技術士第一次試験合格と同等）となります。修了者の修習技術者が、2008年度に技術士第二次試験に初めて合格し、技術士の資格を取得しました。それ以降、修了者の合格者は順調に増加しています。また、初期は修了者が若年であったため低かった合格率も年々向上し、2023年度の第二次試験の結果では、修了者以外の受験者の合格率とほぼ同等となっています（図3）。

2023年度の修了者の合格者は527名で2022年度より7%増加しており、全体の合格者に対する修了者の割合は、19.6%となっています。さらに年代別で見ると20代の51%、30代の42%、40代の4.7%（40歳以上の修了者はまだ極めて少数のため、合格者はほとんどいません）が修了者となっています。合格者の平均年齢は全体で42.8歳であったのに対し、修了者は33.4歳でした。また、通常の大学卒業年齢で修習技術者となった後技術士第二次試験を受験できる最年少（26歳）の合格者は全体で30名ですが、そのうちの20名（67%）は修了者でした。

以上のように、JABEEの認定が若い技術士を生み出すための推進力の1つとなっていることが分かります。

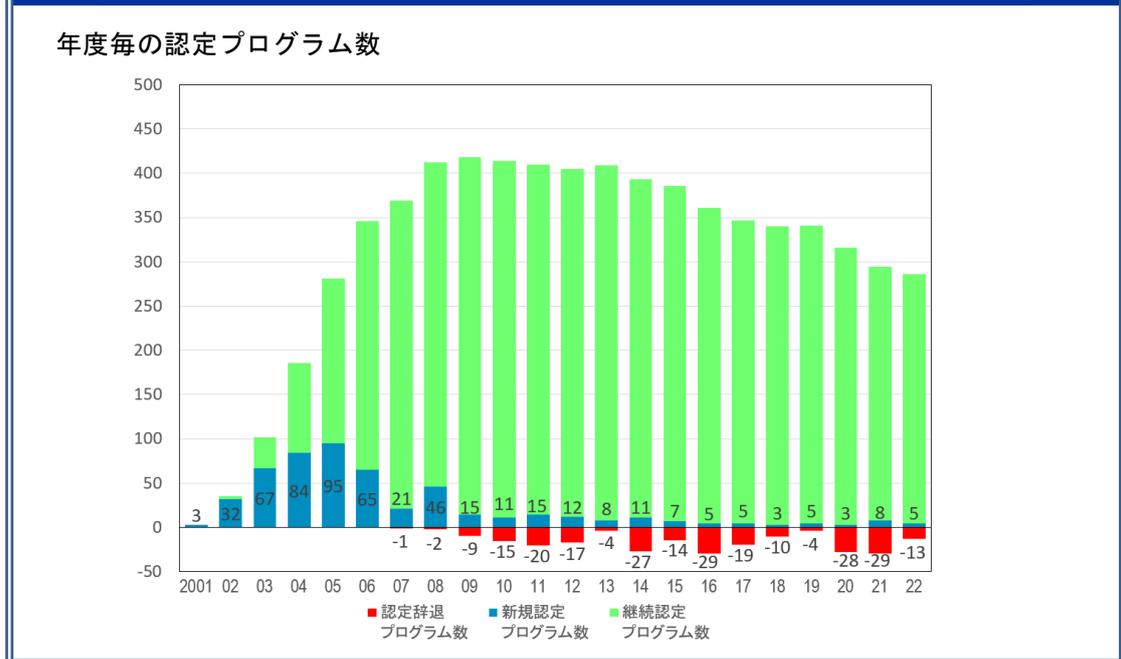
注：「プログラム」とは、学科、コース、専修等のカリキュラムだけではなく、プログラムの修了資格の評価・判定を含めた入学から卒業までのすべての教育プロセスと教育環境を含むものであり、学科やコースなどの総称です。

図1 認定プログラム数と修了生数の累計(海外プログラム除く)



注：2023年度はまだ審査が完了していないプログラムがありますので、結果は2024年度のサマリーレポートで報告いたします。

図2 認定中のプログラム数の推移(海外プログラム除く)



注：2023年度はまだ審査が完了していないプログラムがありますので、結果は2024年度のサマリーレポートで報告いたします。

表1 教育機関種別認定プログラム数 [学士、修士]
2001-2022 累計及び 2022 年度時点(カッコ内) [海外のプログラムは除く]

| 教育機関種類 | 教育機関数 | プログラム数 |
|-------------|-----------|-----------|
| 国立大学 | 54 (47) | 245 (123) |
| 公立大学 | 10 (5) | 24 (6) |
| 私立大学 | 56 (46) | 169 (115) |
| 高等専門学校(専攻科) | 53 (29) | 87 (41) |
| 大学校 | 1 (1) | 1 (1) |
| < 合計 > | 174 (128) | 526 (286) |

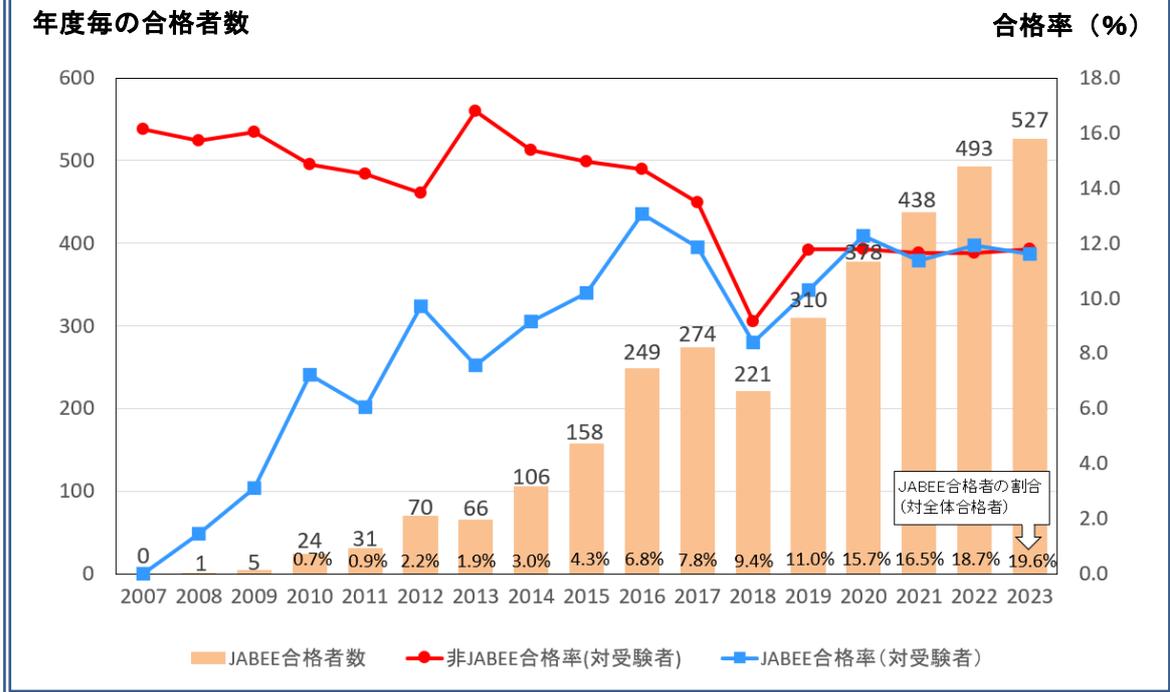
認定プログラム数累計、ただし () 内は 2022 年度時点の認定プログラム数

表2 分野別認定プログラム数 [学士、修士]
2001-2022 累計及び 2022 年度時点(カッコ内) [海外のプログラムは除く]

| 分野 | 2001-2022 累計(現在) |
|--|------------------|
| 化学および化学関連分野／化学及び関連のエンジニアリング分野 | 55 (17) |
| 機械および機械関連分野／機械及び関連の工学分野 | 87 (43) |
| 材料および材料関連分野／材料及び関連の工学分野 | 15 (7) |
| 地球・資源およびその関連分野／地球・資源及び関連の工学分野 | 12 (9) |
| 情報および情報関連分野／情報専門系学士課程(CS、IS、IT・CSec、情報一般分野) | 44 (18) |
| 電気・電子・情報通信およびその関連分野／電子情報通信・コンピュータ及び関連の工学分野／電気電子及び関連の工学分野 | 66 (33) |
| 土木および土木関連分野／土木及び関連の工学分野 | 69 (57) |
| 農業工学関連分野／農業工学及び関連のエンジニアリング分野 | 19 (13) |
| 工学(融合複合・新領域)関連分野／工学(融合複合・新領域)及び関連のエンジニアリング分野 | 66 (32) |
| 建築学および建築学関連分野／建築学・建築工学及び関連のエンジニアリング分野 建築系学士修士課程(建築設計・計画系分野) | 46 (29) |
| 物理・応用物理学関連分野／物理・応用物理学及び関連のエンジニアリング分野 | 6 (4) |
| 経営工学関連分野／経営工学及び関連のエンジニアリング分野 | 6 (3) |
| 農学一般関連分野／農学一般及び関連のエンジニアリング分野 | 13 (11) |
| 森林および森林関連分野／森林及び関連のエンジニアリング分野 | 5 (3) |
| 環境工学およびその関連分野／環境工学及び関連のエンジニアリング分野 | 8 (2) |
| 生物工学および生物工学関連分野／生物工学及び関連のエンジニアリング分野 | 9 (5) |
| 総計 | 526 (286) |

認定プログラム数累計、ただし () 内は 2022 年度時点の認定プログラム数

図3 技術士第二次試験合格者数／合格率の推移



- 注1：「JABEE合格者数」は、技術士第二次試験に合格したJABEE認定プログラム修了者の数を表す。
- 注2：「JABEE合格率」はJABEE認定プログラム修了者の技術士第二次試験の合格率（受験者中の合格者の割合）を表す。
- 注3：「非JABEE合格率」はJABEE認定プログラム修了者を除いた受験者の技術士第二次試験の合格率を表す。